

【ポスター発表】

ガーデニング活動を媒介にした福祉教育実践活動の成果と課題について
—大学生と地域住民との多種多様な交流を中心に—

○ 南九州大学 林 典生（会員番号 5404）

キーワード：ガーデニング活動、福祉教育、交流

1. 研究目的

演者は本学会にて、ガーデニング活動を通じた福祉教育実践活動の実施結果の報告を行ってきた。特に、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域では大学生などの若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することは、若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することにつながる。こうした取り組みは、地域及び大学双方にメリットがあり、さらなる充実が望まれている。また、連携事例の収集・整理、そのノウハウの確立、継続的に実施できる仕組みが求められる。

本研究では、誰もが楽しむことができるガーデニング活動を通じて、大学生と地域住民との多種多様な交流できる方法を探るとともに、ガーデニング活動の可能性を広げるために、ガーデニング活動への興味・関心を通じて参加者のいいところを見つけ伸ばして、親子も含めて誰でも楽しめることができ、参加者同士も交流を深めることのできる場づくりを目指したソーシャルアクションリサーチを実施した。

2. 研究の視点および方法

本研究は以下の4つの事例について活動現場との協働の下で、ソーシャルアクションリサーチを行う中で、詳細な記録をまとめるとともに、および学生、参加者および活動現場関係者を対象にしたアンケートやインタビューを行い、学生と地域住民との多種多様な交流を中心に成果を上げていくとともに、今後の課題点について整理することを試みた。

- （1）ミニチュアガーデン製作ワークショップを通じた大学生と地域住民との交流イベント企画実施活動
 - （2）しょうがい当事者との協働に基づくレイズドベッド（持ち上がり花壇）製作実践活動
 - （3）放課後等デイサービス利用者との協働に基づくミニ砂場及び作業台製作実践活動
 - （4）放課後児童クラブ現場との協働に基づくタイヤブランコ製作実践活動
- なお、活動の具体的な内容は発表当日にて、写真も含めて示します。

3. 倫理的配慮

この研究を実施するに当たり、南九州大学倫理委員会に研究計画及び成果物について審

査を実施して、了承が得られ、かつ実践現場でも了承されたものである。この研究は個人情報保護の視点から、学生および参加者および現場関係者などの関係者に説明を行い、活動全体の記録整理やインタビューを実施した。

4. 研究結果

ミニチュアガーデン製作ワークショップは、2014年5月から企画し、6月から7月にかけて活動現場（特別養護老人ホーム、障害者支援事業所、放課後等デイサービス、児童館、放課後児童クラブ2か所、計6か所）にて実施する中で、大学生が参加者より意見交換しながら改善した。10・11月に地域住民との交流イベントを行った結果、好評であり、参加した地域住民からの口コミ及び大学のホームページで評判を呼び、12月から2015年2月にかけて教育機関関連（小学校3か所、高等学校福祉科1か所、計4か所）からワークショップ実施の依頼があった。また、3月に成人発達しょうがい当事者団体等との協働でワークショップを実施するとともに、4月に幼稚園にてワークショップを実施され、子育てサークル及び幼稚園からもワークショップ実施依頼が寄せられている。

しょうがい当事者とのレイズドベッド製作はしょうがい者支援事業所との協働の下で実施した。2014年11月より学生が車いす利用者や膝の悪い利用者および現場職員と設置場所・高さおよび幅など意見交換した上で、利用者がブロック積み・石張り・塗装・土の準備などの作業分担をしながら製作するとともに、製作途中で車いす利用者や膝の悪い利用者および現場職員に確認しながら進めた。2015年5月より、車いす利用者も含む利用者や現場職員がレイズドベッドに野菜などの苗の植え付けを喜んで実施された。

放課後等デイサービス利用者とのミニ砂場及び作業台製作は放課後等デイサービスが現場の都合で移転した時に、以前作成した砂場がなくなり、利用者がさびしがっているとともに、砂利敷きの上で作業するのが難しい状況が生じたことで、2014年11月より学生が企画して木工作业を行い、利用者には色塗りなどの作業を実施した。2015年2月に完成して利用者が喜んで使用する姿が見られた。

放課後児童クラブ現場との協働に基づくタイヤブランコ製作実践活動は2014年11月より大学生が利用している児童や現場職員から遊具製作の要望に応じて、複数の遊具を企画提案した上で、現場職員と協議しながら木工作业を実施した。2015年2月に完成して利用者が喜んで使用する姿が見られた。

5. 考察

上記のように、成果があげられたが、(1) 大学生の意欲・自発性をどこまで認めていくか（安全管理との関連）。(2) 地域住民との多種多様な交流の意欲がわきにくい学生へ興味を持たせていくか（権力・強制ではなく）。(3) 大学生の多種多様さをどこまで地域住民が受け入れてくれるか（合理的配慮との関連）。等の課題が明らかになった。